

研究レポート

加古川市立陵北小学校 木舎 和幸

1. 研究テーマ 児童の言語力を育成する小学校社会科ノート指導

～コーネル・メソッドを活用して～

2. 研究目的

学習指導要領の改訂に伴い、児童の言語力育成が重視されている。本研究では、授業のキーワードと要点の文章化を重視する「コーネル・メソッド」(以下、CM)を活用したノート指導を継続的に行うことによって、児童が「書き言葉」で学習内容の要点を文章化し、説明する力を持つことが可能かどうかを検証する。特に、社会科で今回行ったのは、社会科授業の問題点として、教師が知識を羅列的に教えていたこと、家庭でノートをふり返って見ても自分のまなびをふり返ることが難しかったことがある。そこで、説明的文章で各時間のまとめを書き綴っていくことで、説明と判断を原理とする社会科の知識や概念を定着しやすくすることを目的とする。

3. 「コーネル・メソッド」による社会科ノート指導

コーネル・メソッドでは、1頁を‘Cue’(キーワードや要点をつなぐ質問等を書く)、‘Notes’(授業内容を書く)、‘Summary’(最も重要な点を見やすいように書く)という3つのゾーンに分けていて、次のような手順でノートに書き込んでいく。

【STEP 1】

- ・その日のキーワードの個数を授業開始時に児童に告げる。→ ‘Cue’
- ・授業の課題を問い合わせの形で設定する。→ ‘Notes’
- ・授業終了時に、キーワードの答え合わせを行う。→ ‘Cue’
- ・全てのキーワードを使い、学習課題に対する答え(説明的知識や分析的知識、判断根拠)を記入させる。→ ‘Summary’

【STEP 2】

- ・キーワード数を明示せず、授業の最後にキーワードの答え合わせをする。→ ‘Cue’

【STEP 3】

- ・‘Cue’への記入内容を限定しない。→ 児童のメタ認知を促す内容や探究の構造を書き込まれた場合には、積極的に評価する。

探究活動の結果習得する知識は、事象間を原因と結果の関係で結ぶ説明的知識や分析的知識である。児童がこれらの知識をきちんと習得したかどうかは、本時の目標が達成されたかどうかと関係する。‘Summary’には説明が、‘Notes’にはその過程が書き込まれる。‘Cue’には‘Notes’と‘Summary’を結ぶためのキーワード、問い合わせや探究の構造が書き込まれる。

授業構成原理を社会の仕組みの「説明」と位置づけ、一般的なノート指導方法ではなく、社会科学習のためのノート指導方法として開発を試みた。

4. 「コーネル・メソッド」を応用した本研究の社会科ノート指導

本来のコーネル・メソッドは「縦型ノート」で行うが、本研究では「横型ノート」で実践した。それは、児童にとって黒板の形に合わせた「横型ノート」の方が、馴染みやすく、よりわかりやすいのではないかと考えたからである。

① ‘Notes’ ゾーンには、板書事項を記録させる。

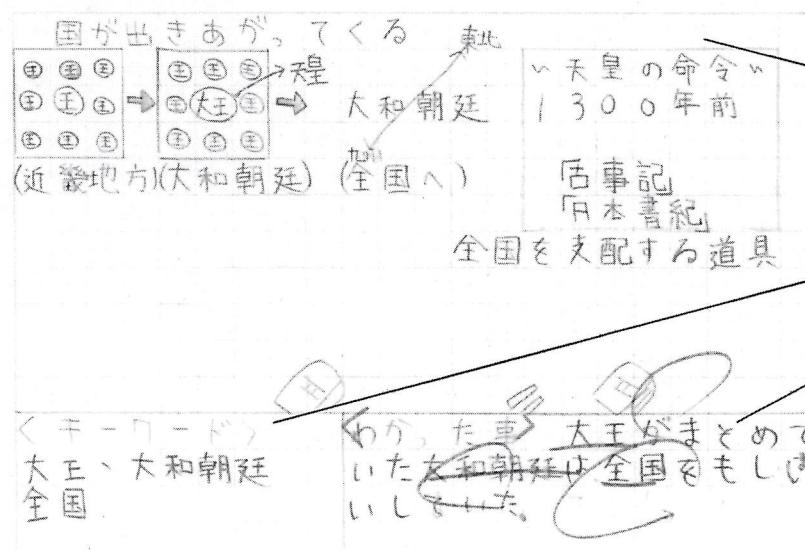
② ‘Cue’ ゾーンは、③ ‘Summary’ ゾーンと共に下部に配置し、キーワードを記入させる。

③ ‘Summary’ ゾーンには、その時間にわかつたことを説明的文章でまとめさせる。教師は、毎時間 ‘Summary’ ゾーンを中心に形成的評価を行う

ことで、点検時間の削減と点検回数の増加につながる。

5. 本研究の実際

【1学期のノート】



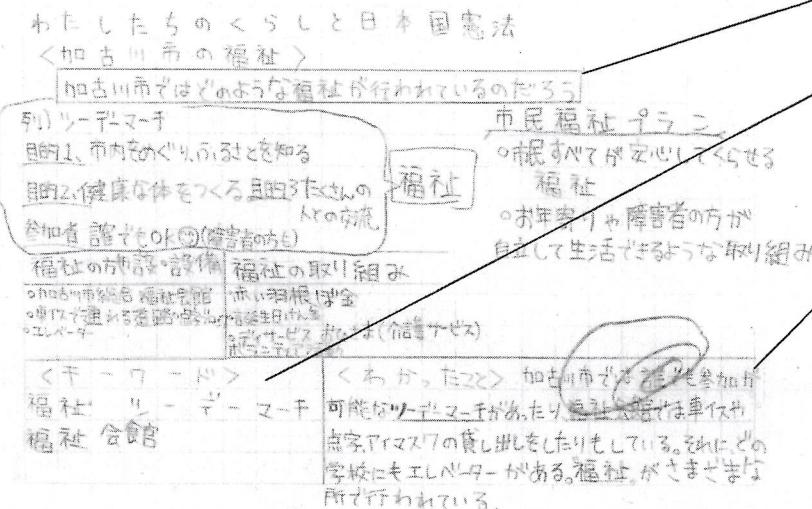
〈学習課題〉

- ・記入されていないが、「どのようにしてくにができるあがっていったのだろう」という課題。
- ・キーワードは、教師が提示。

- ・児童は、教師が提示したキーワードを使って学習をまとめた。

本研究がスタートした1学期最初の頃の女子児童Aのノートである。学習課題は、授業の冒頭で教師が言うだけで、児童はノートに記入していない。また、‘Notes’ ゾーンに書かれている量も少ない。さらに、問い合わせ（課題）が明確でないこと、説明的文章で書く訓練が積まれていないことで、‘Summary’ ゾーンに「どのようにしてくにができるあがっていったのだろう」に対する答えが適切に書かれていないことがわかる。

【3学期のノート】



- ・課題（問い合わせ）を明確にしている。
- ・キーワードを自分で考え記入。後で教師が考えたキーワード（表1）を聞き、比較。
- ・課題に対する適切な答えを自分なりに考え、後で教師の考えた文章（表1）と比較。

同じ女子児童Aの3学期半ばのノートである。1学期当初に比べ、「Notes」ゾーンに板書以外のこと（クラスの仲間や教師が語ったこと等）を書くなどして文字の量が増えている。また、授業のまとめを説明的文章で書くどころか焦点の合っていないことを書いていたのが、約1年間を通して行ってきたコーネル・メソッドのノート指導で、ずいぶん説明的文章で書けるようになってきたことがわかる。

6. 担任が考えた各時間の習得させたい知識（表1）

※三学期の一部を抜粋

時 テーマ	学習課題	キーワード	説明的文章
《わたしたちの願いを実現する政治》			
26 まちの“公共”	公共に関する物事は、誰がどうやって決めているのだろう。	みんなの代表 話し合って	公共に関する物事は、みんなの代表が話し合って決めている。
28 生涯学習センター	生涯学習センターはどのようにしてつくられたのだろう。	生涯学習センター 市民一生を通して	生涯学習センターは、市民の「一生を通して学習を進めていくような施設がほしい。」という願いでつくられた。
29 市議会のはたらき	市議会では、どのようなことが話し合われるのだろう。	市議会 市民の願い 案例予算 市長	市議会では、市民の願いを中心に、市の条例や予算を議決したり、市長の不信任を議決したりする。
30 税金のはたらき	税金は、どのようなところに使われているのだろう。	税金 働いている人 物 公共の施設や取り組み	税金は、働いている人から集めたり、物を買ったたりした時に含まれてたりする。そして、公共の施設や取り組みに使われる。
31 国会のはたらき	国会では、だれがどのようなことを決めているのだろう。	国会議員 预算 法律 内閣総理大臣 案約	国会では、国民に選ばれた国会議員が予算を決めたり、法律を作ったり、内閣総理大臣を選んだり、案約を承認したりする。
32 選挙の大切さ	選挙は、なぜ大切なのだろう。	選挙 自分たちの願い 代表	選挙は、自分たちの願いの実現に向けて努力してくれる人を自分たちの代表として選ぶので大切だ。
33 公共と政治	自分たちができることを考えよう。	公共マナー	公共マナーを守り、みんなのことを考えて行動することを心がける。
《わたしたちのくらしと日本国憲法》			
34 加古川市の福祉	加古川市では、どのような福祉が行われているのだろう。	総合福祉センター 介護サービス ホランティア活動	加古川市では、総合福祉センターを拠点にして、様々な介護サービスやホランティア活動を行っている。
35 市の福祉と憲法の三原	市の福祉は、どのような考え方もとに進められているのだろう。	ノーマライゼーション 一人ひとり 尊重	市の福祉は、ノーマライゼーションの考え方のもとに、一人ひとりが尊重されることを目指して進められている。
37 基本人権の尊重	基本的人権の考え方は、どのような形で実現されているのだろう。	国民としての権利 憲法 保障	基本的人権の考え方は、さまざまな国民としての権利を憲法で保障するという形で実現されている。
38 国民主権	国民主権の考え方は、どのようにして実現されているのだろう。	選挙 代表 政治 参加	国民主権は、選挙で代表を選び、国の政治に参加することで実現している。
39 平和主義	平和への願いは、憲法にどのように表されているのだろう。	前文 第9条 戦争放棄	平和への願いは、憲法の前文や憲法第9条に「二度と戦争をしない。(戦争放棄)」という決意として表されている。

7. 研究の成果と課題

本研究の成果は以下の4点である。

- ①ノートを3分割し、それぞれのゾーンに固有の役割を持たせ、児童に学習の記録やまとめをさせることで、社会科の学習内容である説明的知識等の定着度が高まった。
- ②キーワードをもとに説明的知識をふり返って書くことで、記述的知識等を適切に活用することが可能になり、知識をセットとしてとらえることができるようになった。また、年間を通じて説明的文章を書く習慣をつけることができ、児童の言語力育成に貢献できた。
- ③ノートにキーワードの抽出ゾーンと説明的知識の文章化ゾーンを設けることで、形成的評価の視点が明確になり、ノート指導が短時間での的確に行えるようになった。
- ④また、③に付随して、教師が事前にキーワードを抽出し模範解答となる説明的文章を用意することにより（表1）、教えるべきことの要点が明確になり、指導と評価の一体化につながった。

本研究の課題の一つに、「問い合わせの構造がわかりにくい」ことがある。今後は、補助発問のゾーンを設けるなどして、問い合わせの構造を可視化する方向で改善を図る必要がある。また、児童に説明的文章を書く文章力をもっと効率よくつけていく方法を見つけなければならないと感じた。1回の授業ごとにノートに添削をしたり、個別に指導したりすることを継続してきたが、1教科ではそれが可能であっても、複数教科にわたって同じ指導をすることが時間的な面からも労力的な面からも困難だからである。さらに、現場の教員が実際に使っていきやすいように改善を重ねていく必要があるだろう。

今回の実践は、社会科の授業に絞ってのことであったが、来年度より、他教科においても実践し、その成果を確かめる予定である。